

2020 年度事業報告書
2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所

I 事業の成果

1) 組織づくりの課題

今期は、組織づくりの課題として、中期計画に基づく活動の整理、活動の財源確保、会員を増やすことが掲げられましたが、計画通りには進みませんでした。一方コロナ禍にもかかわらず研究所の活動に多くの方が参加し、ファンを増やすことができました。

1-1) 中期計画と短期目標を結びつけよう

河北潟ビジョンに基づく活動をすすめる上で、ビジョンに掲げられている中期計画に対する短期目標を明確にして取り組むことが大切です。そのため、事業報告書(2019)を作成して、活動ごとの課題、取組、成果の整理を進めました。

ミッション一覧の見直しのための会議を計画しておりましたが、開催できませんでした。

1-2) 財源の確保

助成金は 1 件 300 万円で昨年度より少なくなりました。自主事業は昨年よりはすこし順調になりました。受託事業には変化はありませんでした。寄付金はゆうちょ 50 万円と個人約 84,000 (ホームページ 5,000 円 1 件、ネットショップ 1,000 円 1 件) で昨年より少なくなり、十分な財源は確保できていません。

1-3) 仲間を増やそう

入会案内のパンフレットをつくる予定でしたが、まだできていません。今期、会員は増えていません。

流域連携の取組にプロボノチーム 5 名の参加がありました。インターンシップに大学生 5 名が参加しました。当研究所が主催するシンポジウムや zoom セミナーに新規参加者が増えました。

2) 研究活動の課題

河北潟ビジョンに基づき、再汽水化に関する基礎調査や、水田の生物についての市民参加型の調査活動、機関誌紙の発行を進めることを目指しました。

2-1) ビジョンプロジェクト

陸域の調査として湖岸断面の現状調査を実施しました。河北潟内のベントス等の本格的調査は実施できていません。

2-2) 市民参加型調査

コロナ禍の影響もあり、2019 年度のような水田の市民参加型調査はできませんでしたが、インターンなどが参加して空散前後の生物調査を実施しました。河北潟の環境問題を理解していただくための zoom セミナーを 10 回実施しました。

2-3) 機関誌紙の発行

総合研究 22 巻は 8 月に発行し、全国の汽水域の研究者に寄稿いただいた特集号として 23 巻を 12 月に発行しました。『かほくがた』26-1 まで発行しましたが、2~4 号が残っています。

3) 地域連携をつくる課題

従来からの河北潟周辺での連携の取り組みを継続強化することと、連携を流域に拡げていくことを課題として取り組みました。

3-1) 河北潟自然再生協議会

自然再生協議会の事務局として活動しました。協議会の法定協議会化について、環境省を訪問して情報を得ることができました。

2021 年のクリーン作戦は、引き続き実行委員会形式で河北潟湖沼研究所が事務局となり、立ち上げを行いました。

3-2) 連携を流域に拡げよう

前総会において「河北潟・大野川流域生物多様性協議会（仮）」の設立のための具体的な展開を目指すこととしましたが、まだ連携の形はできていません。

流域連携のためシンポジウムを開催し、流域連携の意義を確認し、連携の課題について取り組む部会、流域の産業を生み出すプログラムを検討する部会の足がかりができました。

3-3) ラムサール条約登録に向けた連携

1 月 31 日に 4 団体協同の野鳥観察会を実施し、今後もこのような連携を続け、ラムサール登録への気運をつくっていくことを確認しました。

4) 河北潟の環境保全の環を拡げる（参加型の実践活動）

河北潟の環境保全に取り組む人の環を拡げるための活動として、観察会やシンポジウム、田んぼの活動を行いました。コロナ禍にもかかわらず多くの人が参加しました。

4-1) 観察会・シンポジウム

観察会、外来種除去活動とも概ね例年どおり実施できました。

1/31 合同バードウォッチング(野外)、3/5 いい川づくりシンポジウム(zoom)、3/14 地球環境基金シンポジウム(zoom+会場)、3/20 イトヨ探し観察会、3/28 ゆうちょシンポジウム(zoom)はそれぞれ新規参加者も多く大成功でした。コロナ禍の中で zoom が活用されたことで参加者の枠が広がりました。また、リアルなイベントでも開催方法の工夫により参加者の満足度は高かったようです。

4-2) 七豊米

田植え（11 名参加）、観察会（13 名参加）、稲刈り（18 名参加）を例年どおり実施しました。分散して参加者を集めたため、全体ではのべ 107 名参加しました。水田内は雑草が増え、収量はこれまでで一番少なく、生産と生物多様性の保全の両立が課題となっています。

5) 自主事業

自主事業は常勤・非常勤スタッフを中心に取り組んでいます。少しずつ収益も伸び、地域の理解や支援者も増えていますが、人件費を加えるとまだ赤字であり、収益性の確保が引き続き課題となっています。

5-1) 生きもの元気米・その他の生きもの元気農産物（加工品を含む）

2020 年産は、ほ場枚数と生産者の契約件数は同じでしたが、取り扱い量は約 0.8 トン増えました。飲食店向け販売のペースが予定より早く、米の残量は 3 月末で約 1.8 トンです。

生きもの元気レンコンは、2019 年より河北潟干拓地の 6 枚の蓮田で農薬不使用のレンコンが栽培され、おもに贈答品、マルシェで好評でした。

レトルト玄米がゆは、740 袋を製造し、現在在庫は約 160 袋です。コロナの影響で、買い物を控える状況や健康志向から、購入者が少し増えました。

5-2) すずめ野菜

今年度は約 50 品目の野菜を栽培しました。

販売先は、金沢駅西金曜マルシェでの直売を基本として、A-C00P や内灘道の駅、ネットショップでの販売も継続しています。マルシェの来場者からバラをいただき、無

農薬のバラの栽培も試んでいます。

5-3) 金曜マルシェ

新型コロナウイルスにより開催を懸念する声もありましたが、野外でのマルシェはむしろ販売窓口として大切であると判断し、予防対策を厳重にして開催しました。来場者には全般的に喜ばれ、2019年度より若干売上金額が上がりました。

パンフレット類を手取る方や、取り組みについて興味を持つ方が若干増えてきました。

5-4) ネットショップ

「河北潟湖沼研究所のお米屋さん」、「すずめ野菜」は引き続き販売し、「おこめナビ」についてはサービス休止に伴い、いったん販売を終了しています。

「カホクガタ」については、「市民科学出版」の本を取り扱うショップとして2020年4月より運用をすすめています。

2020年4月よりAmazonへの出品を開始し、『両生類に魅せられて』は50冊以上販売しましたが、手数料が高いため3月末に小口出品（新規商品の登録ができない）に切り替えました。

全体として出店手数料・クレジット手数料・取扱手数料などの固定費が大きく、それをカバーする販売規模になっていないので、収益性が悪い状態は改善されてません。

5-5) 市民科学出版, その他出版事業

2冊程度の自費出版の受注を目指しましたが、現在1冊の受注でまだ編集作業中です。2019年度発行の『両生類に魅せられて』は販売を取り扱っており70冊程度を販売しました。カレンダーは販売して黒字となりました。

6) 受託事業

特定非営利活動にかかる事業としてのグリーン・アースからの2つの委託事業、こなん水辺公園解説員派遣事業は例年どおり実施しました。その他、NPO法上のその他の事業となる民間からの1事業を実施しました。

6-1) 河北潟干拓地農村環境保全活動

グリーン・アース農地・水・環境保全組織より、農地・水保全管理支払交付金における農村環境保全活動にかかる計画策定業務を受け、防風林帯の植生と鳥類の生息状況、ほ場の外来植物、野ネズミ類の捕食者であるノスリなど猛禽類の生息数調査、麦やレンコン食害で問題となるカモ類の調査、太陽光パネルの影響をみるための鳥類調査、揚水機場タンクにおいて沈水植物の増殖実験などを実施しました。

6－2）県植生保全管理事業

本事業では、河北潟干拓地を中心に植生保全を通じた水質浄化の調査研究、環境啓蒙活動を行っています。西部承水路緩傾斜護岸ではコウホネ、マツモを移植し、経過観察しました。また 10 年前に作成した湖岸 147 地点断面図作成の内、沈下して痩せてきた植生の 15 点を再調査しました。

6－3）こなん水辺公園

新型コロナウイルス感染症の影響として、4 月 18 日から 5 月 3 日の期間は中断しましたが、4 月～11 月と 3 月に実施しました。公園案内パンフレットは作り直す予定でしたが作成できませんでした。

7）助成金事業

助成金としては地球環境基金 1 件だけで、活動内容（用途）が指定された寄付金として ゆうちょコミュニケーション・フィランソロピー協会寄付プログラムを受けました。

7-1）地球環境基金

10 月 18 日に河北潟流域ツアーとして「津幡の水辺を歩いて観察しよう」を実施しました。新たに流域情報を掲載した HP を作成しました。3 月にオンラインで流域保全をテーマにしたシンポジウムを実施し 62 名が参加しました。また 8 ページの「河北潟流域新聞」を作成しました。津幡の水路でのイトヨ探しをメインにした流域ツアーを実施し地元の方々を中心に 38 名が参加しました。

7-2）ゆうちょ エコ・コミュニケーション

田んぼのミニビオトープづくり、七豊米の米づくり、生き物観察会、zoom セミナー・生きものカードの作成をおこないました。成果普及のためのシンポジウム（3/28）を実施しました。

Ⅱ 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
研究・広報及び日常活動	河北潟の自然環境等の研究、 広報誌の発行、通信活動等、 研究助成	2020.4 ～ 2021.3	河北潟及 び周辺	7	全国の研究 者、地域住民 等 110 万人	1,497
地球環境基金助成事業	流域連携による環境保全	2020.4 ～ 2021.3	河北潟周 辺	20	地域住民等 10 万人	3,516
こなん水辺公園解説員派遣事業	河北潟とこなん水辺公園の自 然について来園者らに解説	2020.4 ～ 2021.3	金沢市	5	金沢市民その 他 50 万人	528
地域連携事業	干拓地における水辺と農地保 全活動	2020.4 ～ 2021.3	河北潟干 拓地	4	地域住民等 10 万人	2,633
交流促進事業	地域環境保全のためのイベン ト、啓発活動の主催及び受託	2020.4 ～ 2021.3	河北潟及 び周辺	4	地域住民等 10 万人	64
出版事業	研究成果物の普及、出版企画等 の事業	2020.4 ～ 2021.3	全国	4	地域住民等 50 人	512
地域循環社会事業	環境保全米、循環型の野菜の 生産拡大	2020.4 ～ 2021.3	河北潟周 辺	6	地域住民等 10 万人	4,962

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	支出額 (千円)
受託事業	調査受託等	2020.4 ～ 2021.3	石川県内	3	2,329